

# 窒息事故の詳細分析について(食品①)

○東京消防庁等と連携し、食品・製品等に関する窒息事故について、具体的な原因、被害者の年齢、被害程度を情報収集

- ・東京消防庁(平成18～20年) 3488件
- ・その他政令市消防局(平成20年厚生労働科学研究費補助金分担研究報告書) 648件
- ・こんにゃく入りゼリー窒息事故情報2件(加古川市(平成19年)、松本市(平成20年))

## ■食品

全4137件のうち、不明等を除き※ 具体的な原因食品が明らかになっている事案2414件のうち、事故件数が多い食品、重症以上の割合が50%以上の食品(事故件数3件以上)

### ○事故件数の多い食品

	食品・製品分類	計	重症以上	軽症	中等症	重症	重篤	死亡
1	もち	406	54.7%	113	71	75	128	19
2	ご飯	260	29.6%	120	62	29	35	14
3	飴	256	1.2%	245	8	2	1	0
4	パン	238	33.2%	97	62	27	40	12
5	寿司	76	44.7%	26	16	12	16	6
6	お粥	57	28.1%	26	15	13	2	1
7	リンゴ	57	5.3%	47	7	1	1	1
8	団子(みたらし団子)	55	45.5%	22	8	10	13	2
9	バナナ	40	32.5%	18	9	4	8	1
10	カップ入りゼリー	31	32.3%	11	10	5	2	3

### ○重症以上の割合が50%以上の食品(事故件数3件以上)

	食品・製品分類	重症以上	計	軽症	中等症	重症	重篤	死亡
1	こんにゃく入りゼリー	85.7%	7	1	0	2	4	0
2	しらたき・糸こんにゃく	71.4%	7	0	2	2	3	0
3	たこ	66.7%	6	2	0	3	0	1
3	油揚げ	66.7%	3	0	1	1	1	0
3	ブルーン	66.7%	3	1	0	0	2	0
6	牡蠣フライ	60.0%	5	2	0	0	3	0
7	里芋	58.3%	12	4	1	2	5	0
8	カステラ	57.1%	14	3	3	3	4	1
9	ヨーグルト	55.6%	9	1	3	3	1	1
10	もち	54.7%	406	113	71	75	128	19
11	こんにゃく	50.0%	22	6	5	2	9	0
11	そうめん	50.0%	8	3	1	1	3	0
11	干し柿	50.0%	6	1	2	1	2	0

参考	食品・製品分類	重症以上	計	軽症	中等症	重症	重篤	死亡
	かまぼこ	33.3%	15	6	4	2	2	1
	豆腐	26.7%	15	7	4	2	2	0
	プリン	14.3%	7	2	4	0	1	0

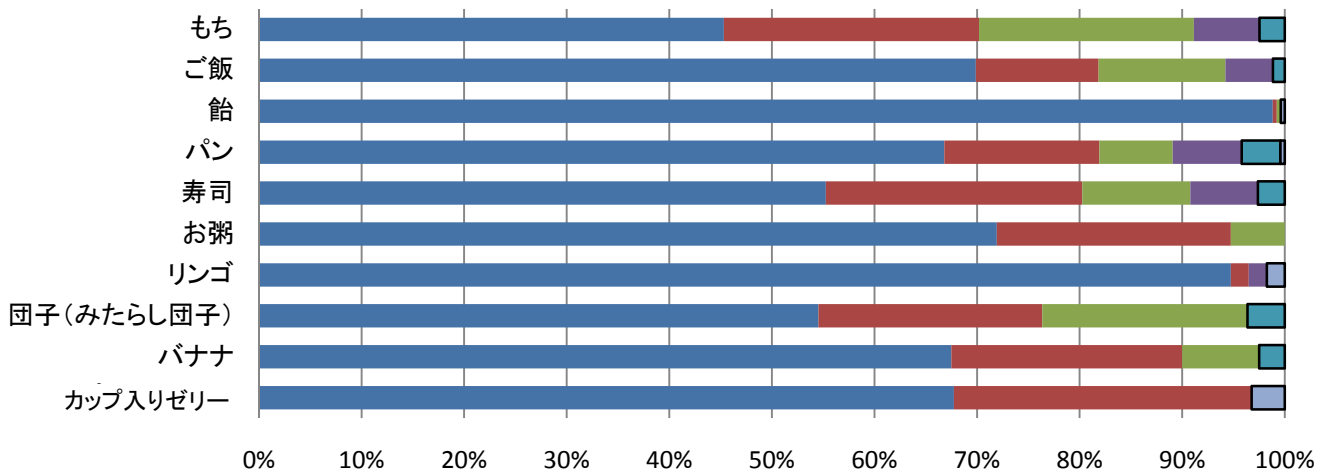
死亡: 初診時死亡が確認されたもの 重篤: 生命の危険が切迫しているもの 重症: 生命に危険があるもの  
 中等症: 入院の必要があるもの 軽症: 入院の必要がないもの

※ 原因食品から、物性・大きさ等が特定困難な情報を削除 例)肉、肉野菜炒め、飲み物、漬物、不明等  
 原因食品に複数の食品名が記述されているものを削除 例)粥・引き割り納豆、ごはん粒・ワカメ  
 物性の類似品を統合 例)食パン・メロンパン等→パン、アサリの佃煮→佃煮、厚焼き卵→卵焼き 等

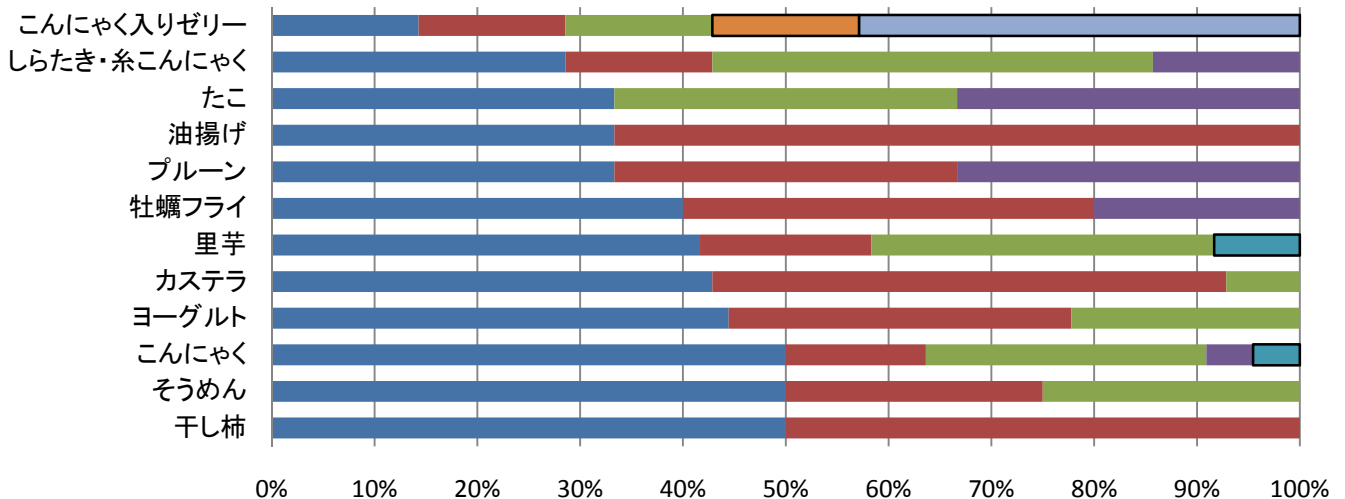
## 窒息事故の詳細分析について(食品②)

- 窒息事故の発生は、食品側及び摂食者側の両方のリスク要因が関連するため、重症(生命の危険)以上の被害が発生しやすい食品について被害者の年代層を分析
  - ・事故件数の多い食品のうち、もちや寿司、団子は重症以上の場合が4割以上であり、また、飴は軽症、中等症である場合が多い
  - ・人側の要因が起因する程度について年齢から分析すると、60歳未満でも事故が発生している食品※1と70歳以上でのみ発生している食品※2に大別
    - ※1こんにゃく入りゼリー、里芋、パン、もち、こんにゃく、団子(みたらし団子)、(カップ入り)ゼリー等
    - ※2油揚げ、カステラ、ヨーグルト、そうめん、干し柿、豆腐、プリン

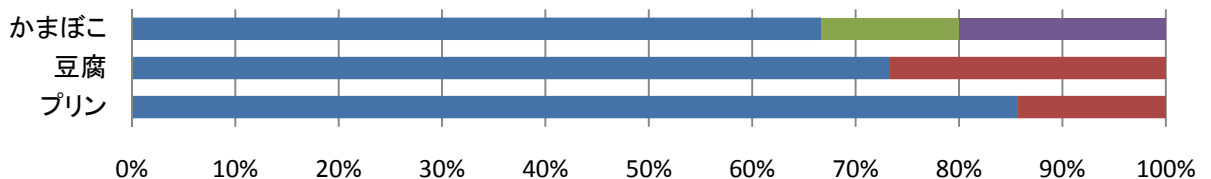
### ○事故件数の多い食品



### ○重症以上の割合が50%以上の食品(事故件数3件以上)



### 参考



- 軽症・中等症
- 重症以上(80歳以上)
- 重症以上(70歳代)
- 重症以上(60歳代)
- 重症以上(13歳~59歳)
- 重症以上(6歳~12歳)
- 重症以上(5歳以下)

## 窒息事故の詳細分析について(製品)

### ○製品について、事故の発生しやすい乳幼児、高齢者等を中心に誤飲、誤嚥 事故情報収集

- ・東京消防庁(平成18~20年) 1885件
- ・その他政令市消防局(平成20年厚生労働科学研究費補助金分担研究報告書) 26件

### ■製品

全1911件のうち、不明等を除き※ 具体的な原因製品が明らかになっている事案1455件のうち、事故件数が多い製品、重症以上の被害があった製品

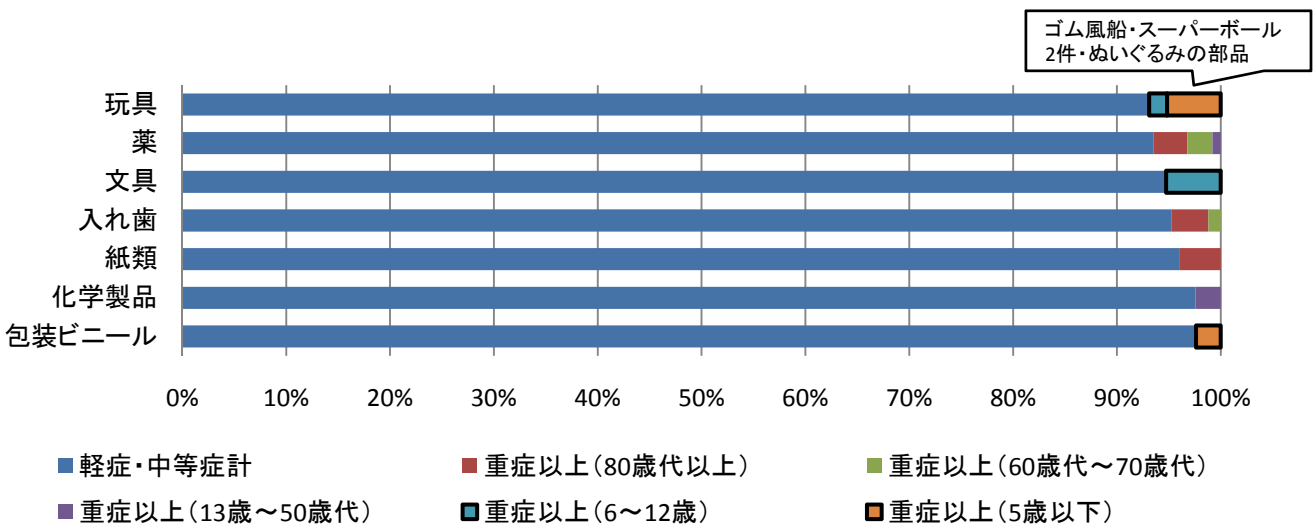
### ○事故件数が多い製品

製品分類	計
1魚等の骨	425
2たばこ	153
3薬	124
4包み	118
5入れ歯	84
6化学製品	82
7玩具	58
8包装ビニール	42
9シール	29
10硬貨	27
11その他	313

### ○重症以上の被害があった製品

計算製品分類	軽症	中等症	重症	重篤	死亡	計	重症以上
1玩具	52	2	1	3	0	58	6.9%
2薬	104	12	4	4	0	124	6.5%
3文具	16	2	1	0	0	19	5.3%
4入れ歯	67	13	4	0	0	84	4.8%
5紙類	22	2	1	0	0	25	4.0%
6化学製品	72	8	1	1	0	82	2.4%
7包装ビニール	40	1	0	1	0	42	2.4%

### ○重症以上の被害があった製品の被害者年齢の割合



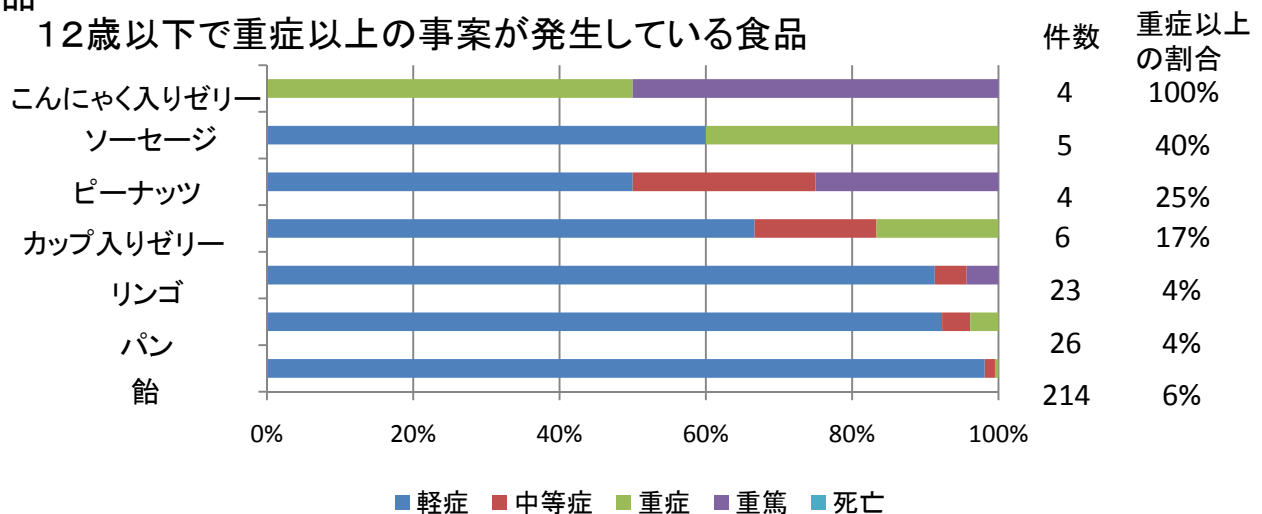
※ 原因食品から、物性・大きさ等が特定困難な情報を削除 例)嘔吐物、飲み物、不明等  
 原因食品に複数の食品名が記述されているものを削除 例)紙・ビニール等  
 物性の類似品を統合  
 例) ペットボトルの包み・パンの包み等→包み、割りばしの包装ビニール・リンゴの包装ビニール等→包装ビニール、紙・ティシュペーパー等→紙類、マニキュア・香水・石鹸等→化粧品 等

## 子ども事故発生件数が多い食品・製品について

- 窒息事故の発生は、食品側及び摂食者側の両方のリスク要因が関連。特に12歳以下を対象に重症以上の被害発生しやすい食品、製品を抽出
- 食品については495件事故が発生しており、重症以上は7件。咀嚼なしでも食道・気道へ運ばれるおそれのある事案はこんにやく入りゼリー、ピーナッツ、カップ入りゼリー、飴
- 製品については195件事故が発生しており、重症以上は6件。食道・気道へ運ばれるおそれのある事案はゴム風船、スーパーボール、ぬいぐるみの部品、筆記具

### ■食品

12歳以下で重症以上の事案が発生している食品



⇒咀嚼なしでも食道・気道へ運ばれるおそれのある食品

；こんにやく入りゼリー、ピーナッツ、カップ入りゼリー、飴

(参考)豆腐(4件)、プリン(1件)には、重症以上の事故は全ての場合、70歳以上で発生

### ■製品

12歳以下の子どもにおいて重症以上の事案が発生している製品(精査中)

分類	小分類	年齢	傷病程度
玩具	①ゴム風船	2	重篤
	②スーパーボール	0	重篤
	③スーパーボール	8	重症
	④ぬいぐるみの部品	1	重篤
文具	⑤筆記具	6	重症
※包装ビニール	ビニール袋	0	重篤

※自宅において、眠りから覚めると、娘の顔にビニール袋(白いレンジ袋)がかかっており意識がなかったため、救急要請したもの

⇒食道・気道へ運ばれるおそれのある製品

；ゴム風船、スーパーボール、ぬいぐるみの部品、筆記具

(参考)ビー玉(3件)、おはじき(2件)は、全ての場合に軽症、中等症